

3 誰もが住みやすいまちづくり（高齢者対策）について

上井地区では、75歳以上の方に福祉活動、防災活動を中心に21項目と自由記述によるアンケートを実施しました。市内全体に関わることなので、行政と地域の連携という観点から質問します。

アンケート結果からキーワードとなるのは

- ・高齢者独居世帯の増加
- ・避難時の支援ニーズ
- ・健康面の不安
- ・会話が健康維持生きがいにつながる
- ・気軽に集まり話をする場
- ・雪かきニーズが一番高い 等でした。

問い⑨⑩

(1) (防災に関わって)

○避難行動要支援者、見守り活動について

災害が発生した場合、自主防災組織では、高齢者等への働きかけが大切で、話し合いや訓練等を行っています。そこでお尋ねですが、

災害が発生した場合の自主防災組織の活動範囲、避難行動要支援者名簿の活用や高齢者等への働きかけ、見守り活動等について、例えば、今年8月に発生した台風7号を例にとり、自主防災組織として望ましい活動について教えてください。

○除雪について

市道や町内の道路除雪については、市の補助制度等も活用しながら除雪を行い、その際高齢者の家回りもできるかぎり除雪しています。しかし、高齢化が進んで町内での除雪が難しい地区もでています。

全国的に見ても北海道や北陸だけでなく、この近辺でも「除雪ボランティア制度」を設けている自治体もあります。倉吉でも市や社会福祉協議会などで、このような制度を考えてはどうでしょうか。

答弁

地震と水害とは取る対応が違う。自主防災組織にお願いしたいこととしては、地域住民がそれぞれの際がリスクを理解していることが重要。地域の防災マップやふれあいマップ、ハザードマップによって自分の場所がどんな危険性をはらんでいるか知っていただくこと。高齢者等避難の情報が発せられたときには、早めの避難の呼びかけや支援を行っていただきたい。

台風7号の時、16時40分に鳥取市に「大雨特別警報」が発せ

られたが、その時点では、上井地区・西郷地区・上灘地区・成徳地区に「避難指示」を発している。8月15日、8時30分には市内13カ所に自主避難所を開設し、13時には高齢者登用支援者避難を呼びかけている。これらの時点で、避難の呼びかけや支援をしていただくのが望ましい。地域で話し合っただけで、隣近所のつながりを大切にして、地域での支えあいが一番で、福祉協力員や民生児童委員、自治公民館等で日頃から気にかけていただくことが大切。

除雪について。各地区に生活支援コーディネーター、地域支え合い推進員を配置しているので、地区の困りごとや課題解決に向けた取組を住民を巻き込んで考えていただければよい。除雪ボランティア制度については、近くでは福知山市などでも始まっているとのことなので、事例等も研究して参りたい。

* 答弁を受けて *

○台風7号の時、8月15日の市の防災メールは4時34分の暴風警報発表～23時10分まで20回ありました。どの段階で自主防災組織として声かけ等をし、どの段階でやめるのか。支え愛マップの見直しにあたって、9月に自治公の役員会に防災センターの職員に来ていただきお話を聞きましたが、大体今答弁いただいたような内容で意を強くしました。また、上井地区でも17町全部で実施している福祉懇談会等で、情報や活動について共有することが大切だと感じました。

今年2月24付で福祉課から「避難行動要支援者に関する情報提供について」の案内がありました。その効果もあり、令和4年度は自治公民館から44件の申請があったと聞きました。昨年9月議会でお聞きした際は年平均で5件程度でしたので、災害時の避難支援や平常時の見守り体制の関心の高さがわかります。

除雪ボランティア制度については、ぜひ研究してみてください。

(2) 福祉に関わって

問⑪⑫

○集いの広場（サロン・カフェ）について

現在、上井地区17町のうち8町で認知症予防サロンを開催してい

ますが、取り組みに濃淡があるのが現状です。天神町でも、高齢者の要望もあり、来年度から試行的にやっという話と話をしています。

・市内における地域でのサロン・カフェの実施状況と実施にあたっての行政等の支援や情報提供があれば教えてください。

○支え愛マップについて

現在、上井地区17町のうち8町で支え愛マップを作成し、災害時の避難活動に活用しています。天神町でも4年前に作成しましたが、指定避難所が河北小から河北中に変わり、要支援者も変わっていたりして来年度修正予定です。

・支え愛マップについて市内の作成状況はどうなっていますか。また、作成にあたっての行政の支援があれば教えてください。

支え愛マップと防災マップのちがい、昨年9月議会でもお聞きしています。マップ作成にあたり、班などお隣同士から町内に広げ、要支援者や避難所までの危険箇所や災害リスク等も確認しています。行政の支援も防災安全課・防災センター・福祉課・社会福祉協議会等に支援していただけます。分けて考えるよりも一つのマップで活用出来るのではないかと思ってお聞きします。

19.15

答弁

サロンについて。市内で集落サロンは、コロナ禍前には116カ所、今は22カ所が廃止等になり100を切っている状況です。参加者の減少や担い手不足といったことが課題となっています。上灘・明倫・灘手・社・北谷・小鴨・関金の7地区で地区サロンが設置されています。地区サロンでは専門相談機能や世代間機能などもある。支援については、依頼があれば、フレイル予防、認知症予防の話、運動、体操など専門職からの直接指導、レクリエーション機材の貸し出しなど行っている。

マップについて。11月段階で市内で109自治公で作成、作成率は約50%となっている。

支援について、初めて作成の場合は5万円以内で支援制度がある。また、支え愛マップに対して、具体的作成に関わる支援、10万円以内ということで支援制度がある。マップとして防災とあわせてつくっておられる地域もあるようなので、作り方については市の福祉課也防災服指導員などが一緒に支援をしている。

* 答弁を受けて *

昨年、公民館加入促進条例を作った。地域として出来ることは頑張っていきたい。行政としても支援をお願いしたい。